

資 料

- 資料1 『田野畑村教育振興運動協議会』 45年の歩み
- 資料2 平成21年度の『実践事例』（机地区実践協議会）
- 資料3 平成21年度の『6実践区の成果と課題』
- 資料4 平成21年度当時の『村の組織機構図』
- 資料5 新しい教育振興運動の『推進図とイメージ図』
- 資料6 田野畑で豊かな体験『田野畑学』のイメージ図
- 資料7 『たのはた子育て支援の姿（案）』
- 資料8 別冊：『田野畑村運営協議会 運営マニュアル』

田野畑村

『村総ぐるみの教育活動』

～コミュニティ・スクールと教育振興運動の一体的推進～

令和3年6月1日（火）14:15～

岩手県立生涯学習推進センター

田野畑村教育委員会

教育長 相 模 貞 一

田野畑村教育振興運動推進協議会 45 回年間の歩み

回数	年度	田野畑村教育振興運動推進協議会				岩手県の教育振興運動の歩み
		組織	運動の目標	主な活動内容	講演の講師	
1	昭40	9地区の実践区と中・高校の2実践区(計11)	子どもの健康と学力向上	「田野畑村の明日をつくる運動」と「家庭教育・社会教育の基礎づくり運動」として教育振興運動が始まる。岩手県より教育振興運動の3年間の研究指定を受ける。16ミリ映画「島の越の読書運動」を制作。		「提唱から普及へ」 提唱から全県下への普及を達成し、質的向上を目指した時期である。
2	昭41	〃	教育水準の飛躍的向上を目指す	第1回産業・教育振興大会を開催。		
3	昭42	〃	学力向上、村民は村の発展に努力	学校主体の運動となっていた。第2回大会開催(800人参加)。弁論大会と出版。		
4	昭43	〃	地域主体から学校主体の運動へ	小・中学校の連携を重視した運動。第3回産業・教育振興大会開催。		
5	昭44	〃	〃	実践活動の質的向上が課題。		
6	昭45	〃	地域の実態に即した運動を目指す	現実問題の直視と、現実と妥協しない運動へ展開。		
7	昭46	〃	〃	教振は学校の指導的役割に期待した。		
8	昭47	〃	学校主体から地域主体の運動へ	学校教育活動の下請けから脱却。地域格差の解消を目指した運動の展開へ。		
9	昭48	〃	基礎学力の向上	読書運動を取り組みの重点とした。		
10	昭49	〃	〃	子供会活動と読書運動を重点とした。		
11	昭50	〃	〃	〃		
12	昭51	〃	読書運動の推進	全村共通主題を「読書運動」とした。		
13	昭52	〃	〃	移動図書館車「はまなす号」購入(10月)。		
14	昭53	〃	読書運動の推進と学力の向上	小学校5年生に「読解力診断テスト」を実施。実践発表の教振大会(150人参加)。		
15	昭54	〃	読書運動の推進と基礎学力の向上	小学校4年生～中学校3年生に「読解力診断テスト」を実施。15冊読書会(207人参加)	田野畑教職員 橋本 哲男	
16	昭55	〃	〃	小学校5年生100人に「読解力診断テスト」を実施。読書発表会(300人参加)。	副委員長 佐々木惣吉	
17	昭56	〃	〃	村民総ぐるみの読書運動の推進。小4年～中2生に「読解力診断テスト」を実施。読書発表会(147人参加)。	岩手大学教員 石川 武男	
18	昭57	〃	「読書運動と学力の向上」と「在学青少年社会参加活動の推進」	小学校5年生に「読解力診断テスト」を実施。読書発表会(207人参加)。	岩手大学教員 大沢 博	
19	昭58	〃	「村民総ぐるみの読書運動の推進」と「健全育成活動に取り組む」	5者の役割を明確にし、村民一体となった家庭教育の充実を図る運動を推進。	副委員長 国井 達夫	
20	昭59	〃	〃	文化講座と中学生読書会。読書運動青少年健全育成標語コンクールで標語を募集。	岩手県音楽隊 副委員長	
21	昭60	〃	「村民総ぐるみの読書運動の推進」「健全育成」「健康と安全」	体力づくりの推進(学校保健会と連携)村PTA連絡協議会と合同で大会を開催。	副委員長 高橋 力	
22	昭61	〃	〃	県内各地の活動状況を映画で学習。	副委員長 昆 善八	
23	昭62	〃	〃	教育振興運動表彰規定を定め、集約集会(152人参加)で個人・団体の表彰が始まる。	大町 PTA 会長 前川 紀博	
24	昭63	〃	〃	学校図書館協議会の表彰も行う。猿山地区教育振興協議会が県表彰。	盛岡市上田公民館長 熊谷 金平	
25	平元	9 実践協議会(7地区)	〃	5分科会での話題提供と討議。	下関教育事務所長	
26	平 2	〃	〃	「賢く、明るく、逞しい」青少年を目指す。5分科会で発表・討議(206人参加)。机小 PTA が東北 PTA 連から表彰。	岩手大学教員 遠藤 哲夫	
27	平 3	〃	〃	4分科会で発表・討議(168人参加)。菅窪子供会育成会が県表彰。田野畑読書発表会。	副委員長 娘 高橋力	
28	平 4	〃	〃	集約集会を「ホテル羅賀荘」で開催(218人参加)。生涯学習の観点で運動を推進。	副委員長 大平 寿子	
29	平 5	7 実践協議会(小学校区単位)	心豊かでたくましい子どもの育成	実践区組織の見直し(小学校区単位)。大会名を「教育フォーラム in たのはた」へ変更。	副委員長 細越 雅子	
30	平 6	〃	〃	教育振興運動30周年記念大会を開催。教育座談会「田野畑の教育を想う」300人参加	落語家 古今亭 軒代	
31	平 7	〃	〃	学校週5日制や生涯学習社会への対応等。ふれあいを大切にする活動の推進。	副委員長 皆川 洋一	
32	平 8	〃	地域の教育力を生かす・ふれあい	ゆとりある生活の中で「生きる力」を育成するため、体験を重視。大会(335人参加)	副委員長 小山田 憲	
33	平 9	〃	「生きる力」を育む活動の推進	「生きる力」を育成するため、自然体験活動を重視。田野畑小で大会開催300人参加。	岩手県立田野畑校校長 竹内 基	
34	平10	〃	「心の教育」を推進	学校、家庭、地域が一体になって子どもたちの「心」を育成。作文発表等。	シンポジウム	
35	平11	〃	各機関の連携・感動体験活動	五日制への対応を目指したシンポジウム各実践区活動(大会200人参加)	シンポジウム	

田野畑村教育振興運動推進協議会 45年間の歩み

回数	年度	田野畑村教育振興運動推進協議会				岩手県の教育振興運動の歩み
		組織	運動の目標	主な活動内容	講演の講師	
36	平12	〃	〃	少年たちの心の風景～感性エを育てるについての講演。 (緑地センター約211名)	腿持敏 高橋史朗	「生涯学習の観点に たった運動の展開」 生涯学習社会の構 築に向け、運動の中 での学習の重視と学 校週5日制への対応 を図る方策を推進す る。
37	平13	〃	心豊かでたくまし い子どもの育成	地域で育てよう田野畑っ子をテーマに 大会を開催。地元学についての講演。 (緑地センター 約230名)。	岩手大教授 広田 純一	
38	平14	6実践協議会 (小学校区単位)	心豊かな子どもを 育てるために	猿山分校廃校に伴う実践区の減。大会 では5者のそれぞれの役割を再認識す ることをテーマに掲げる。組織の見直し (小学校区単位)。 大会名を「教育フォーラム in たのはた」へ変 更。「今、家庭、地域に期待されること」 (緑地センター 約220名)。	岩手大学教 育学部付 属教育実 践総合セ ンター長 新妻 二男	平成14年から完全 学校省5日制 が始まる
39	平15	〃	心たくましい子ど もの育成をめざし て	「すすめよう 読書の体験 生きる力」 をテーマに大会を開催。 「読書(朗読)のすすめ」 (アズビィホール 約201名)	IBCアナウ ンス学院 副学院長 前田正二	
40	平16	〃	〃	教育振興運動40周年大会 読書活動のさらなる推進を図るため、昨 年度と同じテーマで大会を開催 「読書は心の旅」と題して講演会 (アズビィホール 約245名)	盛岡大学文学部非 常勤講師 吉野重雄	
41	平17	〃	〃	すすめよう読書の体験生きる力をスロ ーガンに大会を開催。 「読書で豊かな心を」 (アズビィホール 約255名)	八幡平市 教育委員長 八重樫 勝	「みんなで教振興！ 10か年プロジェクト」 ①「再構築の3年」 H17～H19年 ・課題の掘り起こし と組織の見直し ・モデルプログラム 開発と実践検証 ・教職員の研修機会 と内容の充実
42	平18	〃	〃	「心豊かでたくましい子どもの育成」を スローガンに大会を開催。 「子育て」は、「親育ち」と題して講演 ～自信をもてる子に育てるために～ (アズビィホール 約327名)	岩手県社会教育連 絡協議会 会長松尾弘 一	
43	平19	〃	〃	「各実践協議会等で体験活動の展開」 「扉の向こうに～君との記憶 痛みとと もに～を題材とした保健劇 (アズビィホール 327名)	雫石高等学 校 保健委員会 みなさん	
44	平20	〃	〃	生活の中で「生きる力」をバランスよ く地域の特色を生かしたさまざまな体験 活動を重視。大会) 「学校支援地域本部地域教育協議会成果 発表」アズビィホール 約330名)	山口太鼓の会 宗家会長 佐々木清	第2ステージ (H20年～22まで) 「実践の2目である 今年度より[全県共 通課題]への取り組 みを奨励。
45	平21	〃	心豊かで賢くたく ましい子どもの育 成	全村共通課題である「家庭学習の充実」 と「読書活動の推進」とを連携させた効 果的な取り組みを各実践区協議会等で体 験活動の展開。(学校統合前最終年度) 「学校支援地域本部地域教育協議会成果 発表」 (アズビィホール 約300名)	社団法人ガ ールスカウ ト日本連盟 岩手県支部 長 支部長 平井ふみ子	① 家庭学習の充実 ② 読書活動の推進 (H20～22まで)

平成 21 年度 「教育フォーラム in たのはた」 実践事例資料

活動テーマ 「ふるさと教育と世代間交流を推進していこう」

机地区実践協議会

1 平成 21 年度の活動計画

(1) 活動方針

- ア 人と人とのふれあいを大切にし、思いやりの心を育てる。
イ 地域がもつ多面的な教育素材を有効活用し、児童・生徒の各種体験活動を推進する。

(2) 活動内容

月	主 な 活 動 内 容
4 月	地域一斉清掃作業（机地区・北山地区）
5 月	大運動会（地域住民参加）・慰労会、教振総会（事業計画・予算等審議）
6 月	子ども会地区花壇作り・花苗植え作業
7 月	第 26 回海大会（一泊二日）
	北山太鼓（北山シャクナゲ子ども会）
9 月	親子環境整備作業（校庭・校舎周辺の除草）
10 月	学習発表会（地域住民参観） 世代間交流会
11 月	自由参観日 家庭教育学級・世代間交流（宝石磨き） 防犯綱引き大会（PTA 担当） 図書館祭り
12 月	親子新巻鮭作り体験（机浜）
1 月	冬休み親子読書 親子「読書カルタ」の作成 教育フォーラム参加
	ミニバスケットボール大会（PTA 担当）

2 実践事例

(1) 第 26 回 海大会 — テーマ『思いっきり 自然体験 食・住』—

- ア ねらい ① 直接体験をとおして基幹産業である水産業の理解を深める。
② 遊歩道や浜の清掃活動をとおして、豊かな自然を守る心情を育てる。
③ 共同作業や宿泊をとおして子ども・親・地域の人々との交流や理解を深める。
- イ 日 時 平成 21 年 7 月 19 日（日）9：50～20 日（月）11：20
- ウ 場 所 机浜
- エ 参加者 小学生・中学生・幼児・保護者等・教職員 計 70 名
- オ 内 容 ① 海体験（操船・ウニ採り・ウニの殻むき） ② サツパ船による養殖観察
③ 昔し塩作り ④ テント設営・撤収 ⑤ 炊飯・カレー作り
⑥ キャンプファイヤーと星空・昆虫観察 ⑦ テント泊 ⑧ 刺網体験 ⑨ 机浜清掃



全員集合



ウニ採り体験



ウニの殻むき



海水を煮詰めて昔し塩作り



キャンプファイヤー



がんばった机浜清掃

(2) 家庭教育学級・世代間交流会

ア ねらい

地域や保護者の方々と一緒に活動して交流を深めるとともに地域の自然の特徴について知ることによって、子どもたちが地域に誇りと愛着をもち、自らもその一員であるという意識を高める。

イ 日 時 平成21年11月7日(土) 10:40~12:15

ウ 場 所 机小学校 各学級教室、理科室、家庭科室

エ 参加者 小学生・保護者・教職員 計55名

オ 内 容 「宝石磨き」

カ 講 師 机小学校副校長

活動の様子と流れ



全校児童と保護者の方々



講師の説明に聞き入る児童



宝石を磨く児童



親子での宝石磨き



磨き上がった宝石



出来映えを見せ合う子ども達

ア説 明

* 田野畑村は鉱物の宝庫であること (日本産新鉱物の 6 / 100 は田野畑村で発見されたもの)。

* 田野畑村で採れる宝石になる薔薇輝石という鉱物を磨くこと。

* 磨き方の説明と道具、原石の配布。

イ 宝石磨き

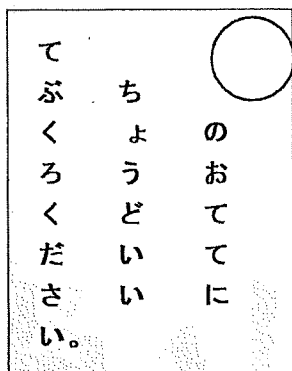
ウ 片付け・掃除

エ 閉会

(3) 読書推進について

- ア ねらい ○親子で読書に親しむ機会を設けるとともに、家庭での読書推進をはかる。
○親子で「読書カルタ」を制作することにより、親子のふれあいを深めるとともに、制作やカルタ遊びを通して子ども達の読書意欲を高める。
- イ 読書への取り組み
①ブックデーの設置・・・毎週水曜日を「ブックデー」とし、家庭で読書に取り組む。
②冬休み中に読む本を10冊選ぶ。冬休み中に1日各家庭で親子読書の日を決めて読書する。
- ウ 読書カルタ
①冬休み中に、「薦めたい本」のカルタを親1セット子ども1セット制作する。
②3学期に学校で、制作した「読書カルタ」を使って子ども達が遊ぶ機会をもつ。
*読書カルタと図書館祭り時の読書カルタの様子（11月実施）

- ☆ 読みふだ1枚・取りふだ1枚で1セット
- ☆ 取りふだに著書名（本の題名）と著者名（作者名）を入れる
- ☆ 用紙はたて長、文はたて書きとする。



取り札を並べる



札を取り合う



同時のときはジャンケン

3 成果と課題

(1) 成果

- ア 海大会は天候に恵まれ、子どもたちはウニ採り体験など、海ならではの体験をすることができた。また、新しく取り入れた「昔し塩作り」「刺網の魚はずし」「夏の星座観察・昆虫観察」も地域の歴史や産業、自然の素晴らしさに気づく良い機会になったと思う。地域の方々の協力のおかげで、質の高い体験活動を行うことができた。感謝申し上げたい。
- イ 家庭教育学級・世代間交流では、「宝石磨き」を行った。根気強く磨き上げた達成感は大きかったのではないだろうか。親子で助け合いながら磨く姿も好ましかった。
- ウ 読書推進では、読書習慣づくりと読書カルタに取り組み、成果が上がってきている。

(2) 課題

地域と一体となって子ども達の健全育成に取り組んだ結果、子ども達の成長が様々な場面で見られる。学校が統合になっても同じように健全育成が図られる体制を作る必要がある。

平成21年度の『6実践区の成果と課題』

田野畑地区実践協議会

(1) 成果

- ① 児童の登下校、PTA交通安全指導などを通して、地域の方々も含め挨拶運動がなされた。
- ② 田野畑を学ぶ活動では、田野畑村の歴史や本校の特徴である鹿踊の伝統芸能継承に関わり多くの体験ができ、今後の学習や活動意欲につながった。
- ③ 1日学習参観日でのキャリア教育等に関わる学習は、発達段階に応じた学習ができた。また、各世代の交流の機会が年間を通して行うこともできた。
- ④ 農業体験活動では、地域のボランティアさんの協力により、種まきから収穫及び調理と一貫して豆腐に関する学習を行うことができた。

(2) 課題

- ① 児童・生徒、学校、家庭、地域社会、行政の5者のそれぞれの良さを出し合い、さらにより良い教育振興運動にしていかなければならない。
- ② 地域に根ざした産業・人的財産を活かし、今後の田野畑を背負う児童の育成に努めたい。

沼袋地区実践協議会

- (1) 地域・学校・PTAと連携し、「甲地鹿踊り」育成会の伝承活動や保護者の読み聞かせによる読書活動などを積極的に展開することができた。
- (2) 保育所児童が小学校に読み聞かせを聞きに来るなど、保小連携を強化することができた。
- (3) 夏休み親子キャンプでは、望ましい親子関係を形成し幼・小・中の異年齢交流を図ると共に、閉校記念事業である「校舎との記念撮影」などを実施することができた。
- (4) 家庭教育学級(フランス料理)、閉校記念事業での「劇団ゆう&岩手大学マンドリンクラブの公演」などはマスコミに大きく取り上げられ、地域からの賞賛と評価を得ることができた。

羅賀地区実践協議会

継続した取り組みによって、望ましい生活習慣の形成(例:早寝・早起き・朝食を食べて登校する子どもの増)が図られたり、自分たちから進んで仕事に取り組む姿が見られるようになったりと、子どもたちがたくましく成長していると感じることができた。

また、一連のふるさと学習でも、課題を設定して、解決するための学習方法や質問項目の吟味などといったような深まりを加えてきた。

今後は、子どもの実態をとらえ、どのような子どもに成長して欲しいのか、そのために地域では何ができるかを考え、話し合いながら実践に結びつけるような運動を展開していきたいと考えている。

机地区実践協議会

(1) 成果

ア 海大会は天候に恵まれ、子どもたちはウニ採り体験など、海ならではの体験をすることができた。また、新しく取り入れた「昔し塩作り」「刺網の魚はずし」「夏の星座観察・昆虫観察」も地域の歴史や産業、自然の素晴らしさに気づく良い機会になったと思う。地域の方々の協力のおかげで、質の高い体験活動を行うことができた。感謝申し上げたい。

イ 家庭教育学級・世代間交流では、「宝石磨き」を行った。根気強く磨き上げた達成感は大きかったのではないだろうか。親子で助け合いながら磨く姿も好ましかった。

ウ 読書推進では、読書習慣づくりと読書カルタに取り組み、成果が上がってきている。

(2) 課題

地域と一体となって子ども達の健全育成に取り組んだ結果、子ども達の成長が様々な場面で見られる。学校が統合になっても同じように健全育成が図られる体制を作る必要がある。

浜岩泉地区実践協議会

(1) 成果

閉校を間近に控え、子どもたちは、この3ページの紙面には載せきれないほどの様々な活動を体験してきた一年間であった。これも、常に子どもたちを見守り育てる立場にある保護者・地域・学校・行政が、それぞれの責任を果たし、相互に連携し協力してきた結果である。

この子どもたちの生き生きとした姿を、今後も随所で垣間見ることのできるような、人的・環境的な配置・配慮を継続していきたいものである。

(2) 課題

教育振興に関わる諸活動を、小学校統合後に更に充実したものとするために、学校・児童生徒保護者・地域・行政それぞれの積極的な連携が今後も望まれる。そのためにも、子どもたちを取り巻く4者が、どのような形の組織を母体とし、具体的に何をどのように進めていくことが望ましいのかの検討を急ぐ必要がある。

島越地区実践協議会

(1) 成果

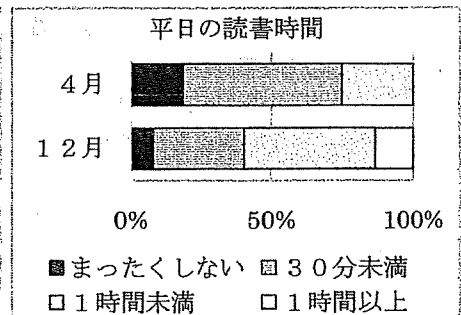
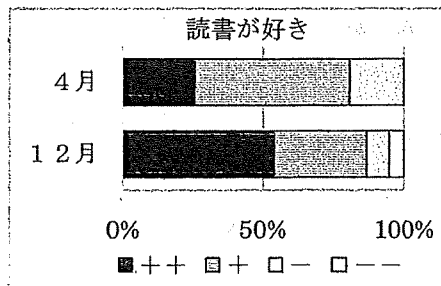
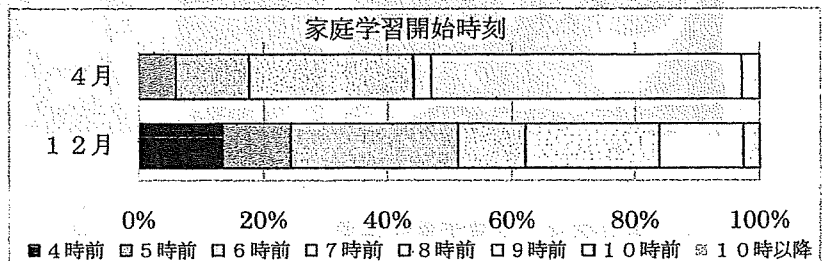
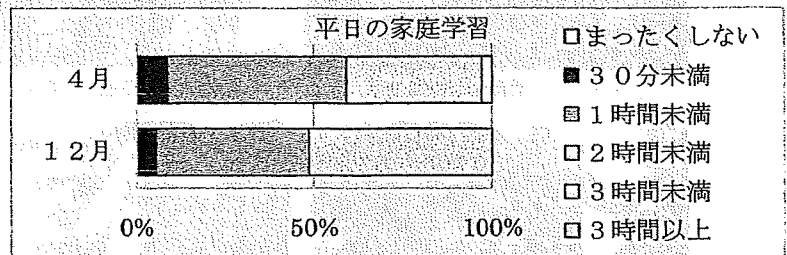
①体験活動を通して地域の特色や漁業への理解を深めることができた。また、年々技術が向上し、道具の使い方にも慣れて高学年は自分で鮭を捌けるようになってきている。

②児童の意識調査（村教振実施）の結果、家庭学習時間や読書時間等で改善、向上が見られた。

・平日の家庭学習の時間は、30分や1時間未満の割合が減り、1時間以上2時間未満が半数を越えた。また、早い時間帯に家庭学習を始める子どもも増えている。特に、8時から9時前の割合が減っているのは、「早寝」が守られることにつながると考える。

・読書が好きと回答した子どもが増え、平日や休日の家庭読書時間が増えてきた。学校のまなびフェストとも連携しながら進めた読書推進活動の成果と考える。

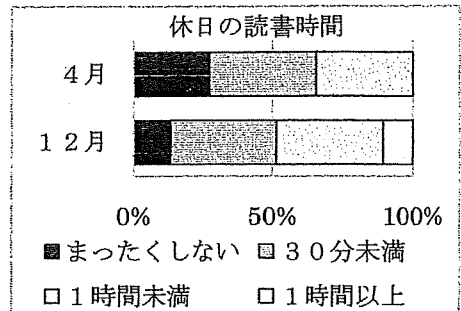
③教振運動に対する地域や関係団体の理解、協力体制が確立され、小学校統合後も地区PTAや子供会、生徒会と連携して活動を継続できる基盤が整っていることが確認された。



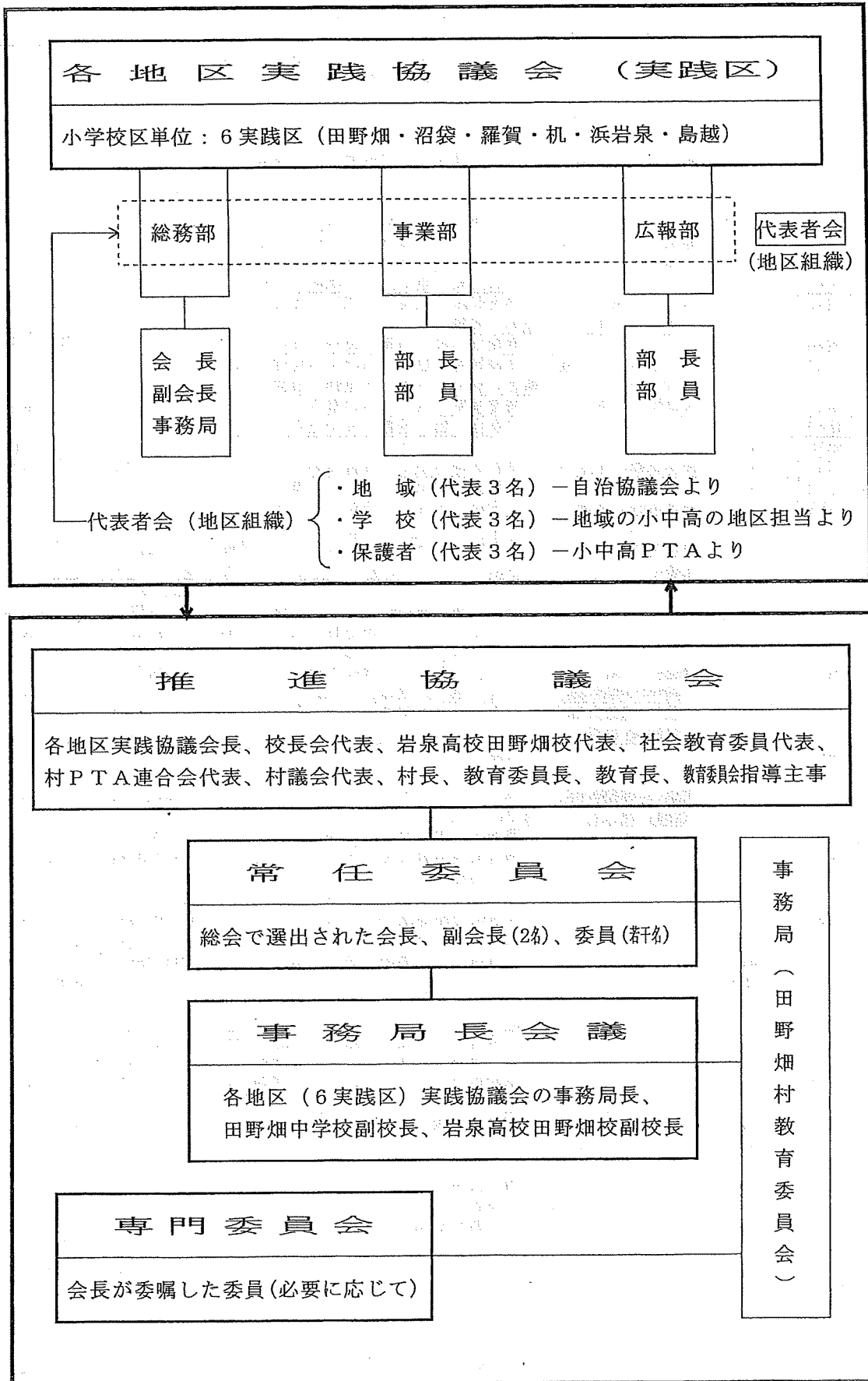
(2) 課題

①家庭学習のうち宿題や復習は比較的やられているが、予習に関してはあまりやられていない。また、読書を全くしない子や公立図書館等の利用状況も芳しくない。学校と連携しながら改善の工夫をして行かなければならない。

②以前と違いPTA会員が地区の1割強という状況では、家庭学習や読書推進は学校とPTAが中心とならざるを得ない。幼保小中合同で取り組んだり、五者の分担と連携をどのように進めるか共通理解を図ったりすることが必要である。



(5) 組織機構図 (平成14年度～)



田野畑村教育振興運動連絡協議会

基本方針策定

計画

実践

評価

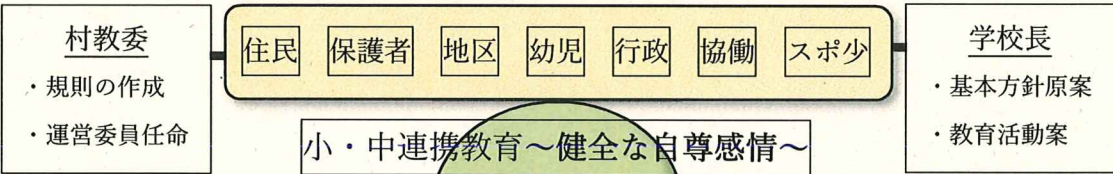
5者＝地域・保護者・子ども・教師・行政
⇒それぞれの役割の明確化を図る！

☆総会の開催：田野畑村教育振興運動の組織・役員・
運動の基本方針・役割・予算の決定

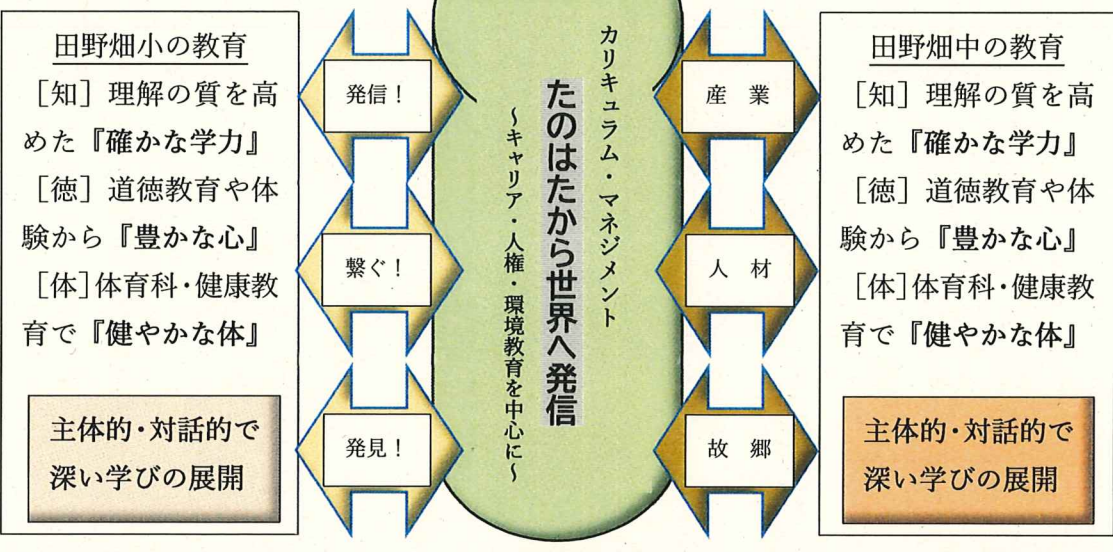
目指す田野畑の子の姿：「たのはた」に自信と誇りをもつ子

たのはた学校運営協議会

～ たのはたコミュニティ・スクール ～



小・中連携教育～健全な自尊感情～



地域学校協働本部事業＝「地域学校協働活動の展開」

◎村教委で配置＝総括推進員（1名）推進員（2名程度） ・活動例：支援ボランティア募集（人材バンク作成）・CSと連携（人材や資源の紹介）・学習、安全、地区実践区との連携、広報活動等

改善

たのはた教育のつどい開催：田野畑教育の成果を村内・村外へ発信の機会！

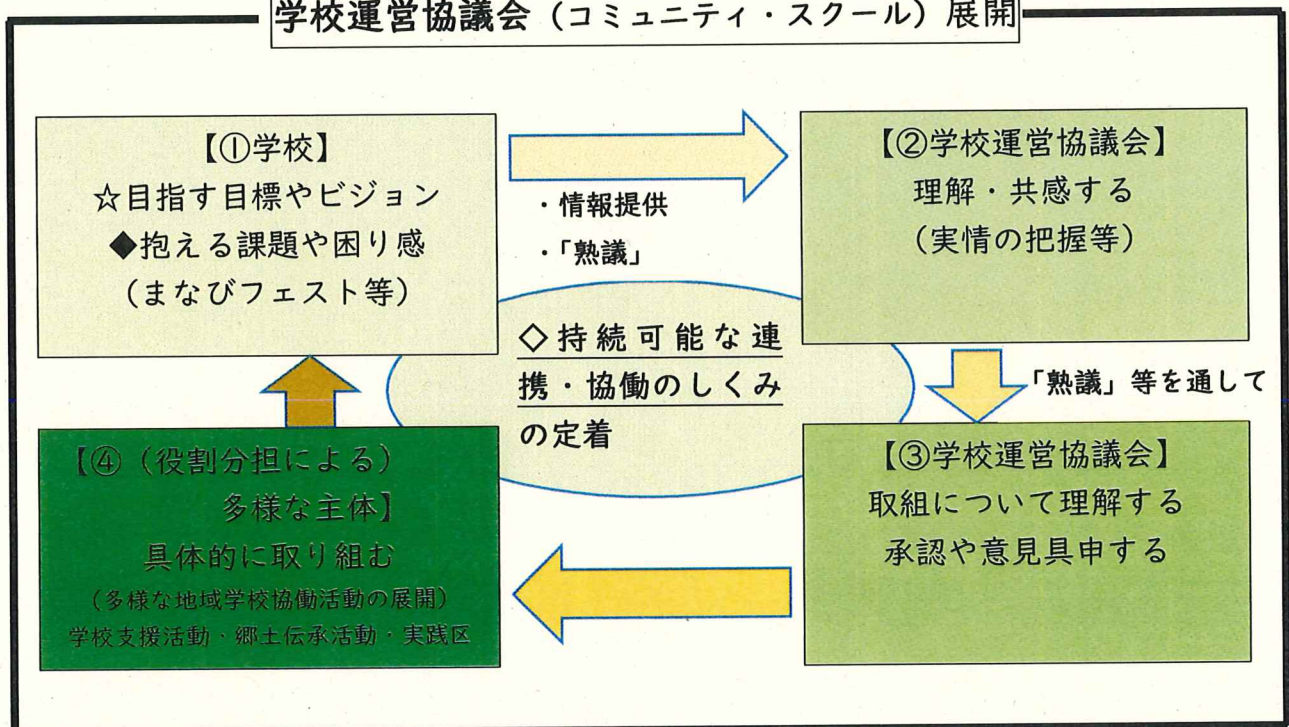


☆各実践区での『子供の安全・安心確保、体験活動、伝承活動の実践』

教育振興運動推進協議会の役割

- 役割：『総会』を年1回開催・田野畑村の教育振興運動の基本方針・推進組織・予算を策定
 委員：村長・議会選出者・6実践区長・小中学校長・小中PTA会長・保児長・社教委長・村教委
 総会：年度初めに開催①実績（各実践区・CS・協働本部・青少年育成）の報告
 ②予算の収支案
 ③運動推進案（基本方針・推進計画・推進組織の役割）

学校運営協議会（コミュニティ・スクール）展開



地域学校協働本部 = 地域学校をつなぐ役割

『地域学校協働活動』 ※◎=実践 ○=未定

学校内における活動		学校外における活動	
教育課程内	教育課程外	教育振興運動	その他
◎ゲストティーチャー	○読み聞かせ	◎郷土芸能伝承	○地域行事
◎学習支援	◎図書ボランティア	○情報メディア	○実践区の体験活動
	◎環境整備 等	○親子読書	○多様な体験活動
		◎登下校の見守り	○放課後子供教室
		○多様な体験活動	○放課後児童クラブ

沼袋実践区 机実践区 田野畑実践区 浜岩泉実践区 羅賀実践区 島越実践区

☆各実践区での子供の安全・安心、体験活動、伝承活動等の自主活動（他の実践区との交流の推進も！）

田野畑で豊かな体験活動＝「田野畑学」のイメージ

～田野畑で遊び、田野畑を知り、田野畑で学び、田野畑に貢献する人づくり～

田野畑学のポイント

- ・田野畑の人・もの・ことを教育材料として行う学習
 - ・小・中9年間の見直しをもった系統的発展的な学習
 - ・田野畑の良さを実感し、愛着と誇りがもてる学習
 - ・愛着と誇りが自尊感情を高め、自立した人を育む学習
- +
- ・Society 5.0 対応: 21 世紀型能力(基礎力・思考力・実践力)を身に付け、認知能力と非認知的能力の調和を図ること。

地域資源	起業教育	人的資源
①考古学的	①資源学習	①偉人から
②歴史的	②体験学習	②外部から
③地学的	③商品開発	③生業の人
④産業資源	④職場体験	④名人から
⑤観光資源	⑤販売活動	

※小学校・中学校の実践内容は活動のねらいを一本化し、一貫性をもたせる。
 ※中学校は、「仮会社 comaru」を設立、商品化・販売まで本格的に体験学習。

自尊心の健全化



- ◆生活科・総合的な学習を中核にすえ、カリキュラム・マネジメントを志向する。
- ◆キャリア教育の視点から事前・事後活動の充実を図る。
- ◆コミュニティ・スクール、地域学校協働本部事業で、地域・関係機関との更なる連携を図る。

- 保育園・児童館
- 小1年
- 小2年
- 小3年
- 小4年
- 小5年
- 小6年
- 中1年
- 中2年
- 中3年

田野畑で存分に遊ぶ!

幼児・児童・生徒への支援

- ① 適切な教育環境
- ② 困り感など多様なニーズへの早期支援
- ③ 養育する親の支援

大人として!

- ◇子どもの生きることの権利保障
- ◇共に遊び、ふれあう時間の確保
- ◇共に学び合う時間の確保

新指導要領で目指す「生き抜く力」の三本柱

- ① 生きて働く「知識・技能の習得」
- ② 未知に対応する「思考力・判断力・表現力等」
- ③ 人生・社会に活かす「学びに向かう力・人間力等」

子育て世代の課題

- ① 金銭的・心的負担感
- ② 子育てへの不安
- ③ 孤立感

注: [] = 検討中、未来の姿

[] = 現在の姿

